

シラバス

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		
担当教員	橋本、平川、福崎、田島、隈		
配当年次	3年次	開講時期	2学期
単位区分	選択	単位区分補足	
授業形態	講義	単位数	2単位
準備事項			
備考			

【授業のねらい】

- ・ソーシャルワーク実習の意義を理解する。
- ・社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく支援者としての姿勢を養成する。
- ・ソーシャルワークにかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、基礎的な知識・技術等を修得する。
- ・実習をふり返り、実習での体験や具体的な援助活動を専門技術として概念化し、理論化し、体系立てる能力を涵養する。

【授業の展開計画】

1. 実習先の法的根拠、利用手続き、職員の配置基準、他の専門職の主な業務等を理解する。
2. 実習先のある地域の状況、社会資源、課題等を理解する。
3. アセスメント、支援プラン作成指導
4. 実習計画書の作成を通して、実習の目的や意義、実習の方法等を理解する。
5. 実習計画書を作成する。
6. 実習記録の内容・記録方法等を確認し、プライバシー保護や守秘義務について理解する。
7. 実習先への事前訪問を踏まえて、利用者の特性や職員の業務、地域の状況等を整理する。
8. 三者協議を踏まえ実習内容・実習計画を指導し、実習課題を整理する。
9. 巡回指導や事後指導の目的・方法等について指導し、実習中の連絡方法、必要書類等を確認する。
10. 実習先における巡回指導
11. 帰学指導（個別スーパービジョン、グループスーパービジョン）
12. 実習体験の報告を参考に実習をふり返る。
13. 記録等を参考に実習課題を整理する。
14. 実習総括レポートの作成指導
15. 実習の全体総括会および実習評価を行う。

【履修上の注意事項】

ソーシャルワーク実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。

実習先への事前訪問やボランティア活動を通して理解を深め、事前学習にもさらに取り組み、ソーシャルワークの実践能力を涵養するよう予習を行うこと。

【評価方法】

指導に対する積極的応答と関与（30%）およびレポート提出・内容（70%）で評価する。

【テキスト】

【参考文献】